# 正倉院年報

## 一、古裂の整理

昭和四十二年度においては、主として中倉に所属する第八十七号・第八十八号および第九十三号櫃に納める布、綿、氈等断爛塵芥の整理ならびに南倉所属の楽服類および第百二十六号櫃所納の幡類の展開整理を行なった。その結果は次のとおりである。

一、布、綿、氈等断爛及塵芥、

布類残片　三十五片　軸第二五五号—第二五七号

右残片は白布十四片、縹布二十一片であって白布中「調壱端□□□亀元年十月」「四尺二寸」「塔」「□敷布」「天平勝宝七歳十月」等の墨書あるものがある。

氈類残片　五十片

白、赤、黄の色氈四十八片、花氈二片で、白氈中には褥心の氈と思われるもの数片が含まれている。

麻綱類　五束

真綿　二裹

二、楽服及び袋類

唐古楽拾九物の内

羅陵王接腰残闕　一隻　紫地錦、白絁裏

墨書　嗔面、東寺唐古楽羅陵王接腰　天平勝宝四年四月九日

狛楽拾七物の内

桙取接腰　一隻　錦、緋絁裏

墨書　東寺狛楽桙取接要（マヽ）　天平勝宝四年四月九日

呉楽八拾五物の内

崑崙袍　一領　紅絁、白絁裏、黄地錦袖、紫綾襴

墨書　東大寺、前昆崙、六年、朱方印を捺す。

金剛袍残闕　黄絁、白絁裏、

墨書　東大寺前二　金剛　天平勝宝四年四月九日

金剛帯　一条　緋綾、白絁裏

墨書　後金剛六年　東大寺、朱方印文云東寺綱印

金剛面袋残闕　緑絁、緋絁裏

墨書　鵤寺金剛

金剛桙取袍残闕　紫綾、黄絁裏

墨書　後金剛（力士）桙取、力士桙取□宮□、

金剛桙取接腰　一隻　錦、白絁裏、

墨書　東大寺前一金剛桙取　天平勝宝四年四月九日

力士桙取接腰　一隻　錦、白絁裏

墨書　東大寺前一力士桙取　天平勝宝四年四月九日

酔胡袍残闕　黄絁、白絁裏、紫地錦端袖、

墨書　天平勝宝四年四月九日　後二酔胡、

酔胡衫　一領　白絁

墨書　東大寺　後一酔胡　天平勝宝四年四月九日

迦楼羅袴　一腰　緑絁、白絁裏

墨書　□一迦楼羅□宝四年□

婆羅門帯残闕　紫絁、緋絁裏

墨書　後婆羅門

庇持帯　一条　緋絁、白絁裏、

墨書　東大寺　庇持　前　朱方印文云東寺綱印

鼓撃袴　一腰　白絁袷

墨書　□□(前一)鼓撃袴　東大寺　天平勝宝四年四月九日

鼓撃帯　一条　白絁

墨書　東大寺前二　鼓撃帯　天平勝宝四年四月九日

鼓撃帯　一条　白絁

墨書　前　鼓撃帯

鼓撃帯残闕　白絁

墨書　後一鼓撃□、□長□広□、東大寺　天平勝宝四年四月九日、

朱方印文云東寺綱印

鼓撃帯　一条　白絁

墨書　東大寺　天平勝宝四年四月九日　後二鼓撃帯

鉦盤撃帯　一条　白絁

墨書　天平勝宝四年四月九日　東大寺後二鉦盤撃

鉦盤撃帯　一条　白絁

墨書　□盤撃　□宝四年四月九日

紫綾帯　一条　緋絁裏

墨書　東大□□子　□勝宝□　花押あり、

袍袖弐裏の内

褐色夾纈羅袖　一隻　単

衣服残闕　白絁袷、紫地錦袖

白絁袖残闕　単、紫地錦端袖

緑細布袖残闕　単

褐色絁袖残闕　白絁裏

白絁袖残闕　単

衫七領

白絁衫　一領

墨書　法、□寺

布衫　一領　貫頭布衫

布衫　一領　赤絁袖、紅地薦纈絁胸

布衫残闕　一領　紅細布

布　　衫　　一領　貫頭布衫
布　　衫　　一領

右一領布衫とあるが所謂早袖の類である。

布衫残闕

墨書　十条

接腰壱両弐拾四隻又壱裏の内

緑地錦接腰残闕　　一隻　緋絁裏

脛裳四隻又壱裏の内

名不詳用具残闕　紫地錦、紫綾裏、付残片三、

御物目録に脛裳残闕とあるが、その形状より推して脛裳ではない。姑く名不詳用具とし後考を俟つ。

帯拾参条又四裏

紫地錦帯　　一条　緋絁裏
白　絁　帯　　一条
同　　一条
同　　一条
同　　一条
同　　一条
同　　一条
緋　絁　帯　　一条

紫　綾　帯　　一条　緋絁裏
同　　帯　　一条　白絁裏
緋　絁　帯　　一条　黄絁裏
帯心残闕　　一条
帯心残闕　　一条
帯　残　闕　　一条　心と白絁裏存す。
帯　残　闕　　一条　白絁、同裏
帯　残　片　　二片　一、緋絁、黄絁裏、一、緋絁、緑絁裏

右帯類は藺筵を麻布にて裏み心となす。

襪拾参両六拾参隻又参裏の内

錦　襪　　二両　並布裏
錦　襪　　一隻　布裏

墨書　東大寺

錦　襪　　二隻　並布裏

各朱方印を捺す。文云東寺綱印

錦襪残闕　布裏
錦　襪　　一隻　布裏
錦襪残闕　　四片
白橡藺縁絁襪　　一隻　白絁裏
緋　絁　襪　　四両　並布裏
同　　一隻　布裏

墨書　東大寺□□(灌脱)天平勝宝四年四月九日

同　一隻　白絁裏

同　二隻　並布裏

一隻墨書　東大寺

同　一隻　黄絁裏

同　一隻　生絹裏

墨書　東大寺

同　一隻　布裏

墨書　東大寺渾(皇帝破陳楽)脱(襪)天平勝宝四年四月九日

同　一隻　布裏

墨書　東大寺婆理

同　一隻　黄絁裏

墨書　東大寺　散□(楽)

同　二隻　並生絹裏

袋類拾六点の内

皂絁幡鎮袋　一口　白絁裏、綿入

墨書　東大寺□□鎮袋　天平勝宝九歳五月二日

同　一口　白絁裏、綿入

墨書　東大寺枚幡鎮袋　天平勝宝九歳五月二日

碧絁幡鎮袋残闕　白絁裏

墨書　東大寺第四宝□壇鎮袋　天平勝宝九歳五月二日、

黄絁幡街木袋　一口　白絁裏、綿入

墨書　東大寺枚(灌頂)幡街木袋　天平勝宝九歳五月二日

白地錦袋残闕　浅緑薦纈絁裏

白綾白絁袷断片

右御物目録に白綾長形袋残闕絁裏とあるが、実物を検した結果袋の形態をなさず。何の断片か明らかにし難い。

紫綾細長袋　一口　浅緑目交纈纈絁裏

黄絁細長袋　一口　白絁裏

黄絁袋残闕　一口　白絁裏

墨書　東大寺第□(一灌頂幡カ)袋　天平勝宝□(九)歳□

黄絁袋残闕　白絁裏、綿入

紫絁袋残闕　白絁裏

浅緑目交纈纈絁袋裏　紫綾表僅存

## 三、幡　類

道場幡残闕　二十六旒

同　残片　二十三片

錦幡と羅幡の二種がある。いずれも天平勝宝九歳五月二日聖武天皇御一周忌斎会の道場を荘厳されたものである。

大幡身花形裁文　一片　綾

大幡垂脚残闕　二十七片　綾

大幡垂脚端飾　一枚　花形裁文錦

右大幡類は灌頂幡の残闕であつて、聖武天皇御一周忌に当り東大寺において使用されたものである。

綾中幡残闕　一旒
綾幡残闕　三旒
同　残片　四片
薄絁小幡残片　四片
花鬘緒残闕　一条　夾纈羅、夾纈絁裏、付残片二片

天、月、九、納東大寺等の墨書が見られる。恐らく天平勝宝八歳五月十九日の聖武天皇御葬儀関係品であろう。

天蓋垂飾断片　一片　刺繍、浅緑裏
同　一片　赤地錦、白綾裏
衣服残片　二片　一、纈纈浅緑綾　一、橡茜纈絁
同　一片　蘇芳染絁
衣服残闕　一領　蘇芳染絁、赤地錦袖、橡地錦腰、白絁裏

墨書　東大寺前二師子　天平勝宝四年四月九日　恐らく師子児袍であろう。

右花鬘緒残闕以下は幡類残闕中から発見したものである。

## 二、宝物の修理

本年度においては専ら漆工品の修理を行つた。その品目は次のとおりである。

一、黄金荘大刀　第一号　一口　（中倉）
一、黒作大刀　第二十六号　一口　（同　）
一、武王大刀　一口　（南倉）

右大刀類の漆鞘

一、柳　箱　一合　口縁漆塗　（中倉）
一、金銀平脱皮箱　第四号、第五号　二合　（同　）

面取被せ蓋造、黒漆塗、金銀平脱をもつて鳳形、花枝を銜えた鳥などの文様をあらわす。二合とも同形同文様で雙をなす。献物箱の一であろう。

一、漆　挾　軾　一枚　刻銘東大寺　（同　）
一、漆　高　机　一枚　十八脚　（同　）
一、赤漆桐小櫃　一合　着銅漆鏁子　（同　）
一、漆彩絵花形皿　第四号　一枚　（南倉）

桂材、四弁花を中心にその四隅にさらに葉形を刳り出した漆塗りの花形盤である。蕨手状の四脚を付け取り外しができる装置になつている。盤内面は丹を塗り金箔の縁をとり、全体に油をかける。外面は彩絵で花葉文を描く。

一、漆彩絵花形皿　第六号　一枚　（南倉）

第四号と同質同形であるが盤内面は黒漆塗のままとし、外面のみ彩絵を施す。ただし彩絵は顔料を油で練つて描いたいわゆる密陀絵である。

一、漆花形皿　第七号、第八号、第十一号　第十六号、第二十号、第二十五号　六枚　（南倉）
一、漆皮金銀絵八角鏡箱　一合　（同　）
一、金銀絵鏡箱　一合　（同　）

## 三、刀剣類の研磨

本年度において研磨を終えた刀剣類は次のとおりである。

一、銅漆作大刀　第十号　一口　（中倉）
一、無　荘　刀　第三十四号　一口　（同　）
一、鉾　第十号　一枚　（同　）
一、十合鞘刀子の内刀子　一口　茎鑞　（北倉）
一、樺纏把鞘刀子　第四号　一雙　（中倉）
一、白牙撥鏤把鞘刀子　第四十二号　一口　（同　）

## 四、経巻の修理

聖語蔵経巻の修理は前年に引続き乙種写経五十八巻を完了した。すなわち次のとおりである。

一、乙種写経　第五〇号　阿毘達磨大毘婆沙論　百五十一巻の内　五十巻
巻五四、五五、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、一〇〇、一〇三、一〇四、一〇七、一〇九、一一一、一一二、

巻末に識語あるもの数巻ある。その二、三を次に掲げる。

（巻五八）貞応三年十一月廿七日子時於東大寺中院加一見□□任愚意少々書入文字了□悼難遁矣　大法師宗性

（巻七二）建久九年六月廿一日於神護寺類聚抄学門次今□引見処文四十余行脱落然為興隆以雑断派写入之但写本福州唐本也後見人可□之花厳末流教玄

（巻九一）建久二年辛亥才次二月六日書写了　為興隆佛法奉書写一切経内也願主主税允中原行盛

右経巻応々紙背に宝塔、仏、賀、梵字、東大寺正蔵院等の黒印が捺してある。いずれも虫損が多く、また標軸の逸失するものがある。それぞれ虫喰欠損のところを補修し、標あるいは軸の欠失するものは古様に似して新補した。

## 五、宝物の特別調査

### (イ)　伎楽面調査

一昨昭和四十年度より始められた伎楽面調査は本年度を以て完了した。本年度においては乾漆伎楽面三十六面、布作面三十二面のほか伎楽面袋二十七口および両口布袋三十二口の調査を行つた。また昨年に引続いて伎楽面の実測図作成のため等高線写真撮影を実施し、破損甚しい数

点を除き木彫および乾漆全部の撮影を了した。調査は奈良国立文化財研究所長文学博士小林剛、神戸大学教授文学博士毛利久、元奈良学芸大学教授長屋謙三の諸氏がこれに従事し、等高線写真撮影指導は東京大学生産技術研究所教授工学博士丸安隆和氏がこれに当つた。

### (ロ) 刀身調査

昨年度より実施の刀身調査は引続き本年も行われた。本年度は中倉所納の無荘刀のほか手鉾、鉾の全部および刀子七点の調査を実施した。また科学的調査には研磨のため出蔵中の銅漆作大刀第十号、無荘刀第卅四号、鉾第十号、北倉所納の十合鞘刀子中の茎を鑽に作る刀子一口および中倉刀子第四号一雙、第廿八号四合鞘刀子の内一口について金属顕微鏡による金属組織、熱処理技法等の調査を行なつた。調査は文化財専門審議会委員文学博士本間順治、東京国立博物館工芸課長文学博士佐藤貫一の両氏、科学的調査は岩崎航介氏死去のため助手の岩崎重義氏にそれぞれ依嘱して実施した。